

【説明会資料】 児童生徒によるプレゼンテーション

【英語スピーチコンテスト】

武藤 隆修(6年生)



それは、去年の英語スピーチコンテストからの思いだった。「来年のスピーチコンテストこそ1位とる!」今年9月上旬。ネットでできそうなスピーチはないか探すとレオナルド・デカプリオさんの国連気候変動サミット2014のスピーチを見つけた。僕の夢は俳優になることなので、このスピーチにした。覚え方は、去年の方法を思い出し、①覚える段落を音読、②暗唱、③自分の暗唱を英語の得意な人(僕の場合は姉)に聞いてもらい、アドバイスしてもらう。という方法だ。これでエントリーに間に合った。その後嬉しい決勝出場の通知が来た!決勝当日まで練習を続け、さらに良いものへと近づけた。決勝当日スピーチの時、少し緊張したが自分のベストを尽くしたスピーチをし、1位という嬉しい榮譽につながっている!

野崎 莉琴(8年生)



今年のスピーチコンテストは私にとってセカンダリー最後のものであり、且つ3回目の挑戦でした。今回は今までとは違い、予選があったので例年より早めに原稿作りに取り掛かる必要がありました。夏休み明けからはネイティブの先生と何度もその原稿のやり取りをし、そして10月には主として8年生が率いる運動会という仕事があった為、先生との本格的なスピーチの練習はその後から始めました。予選通過後は家での練習と、昼休みや放課後を使い、予選以上に良いスピーチができるよう先生と練習しました。本番は例年よりその場にいる人数は少なかったものの、カメラがあったので少し緊張しました。こうして人前に出てスピーチをすることは、英語に限らずとても良い刺激となり、自分が社会人になった時、必ずやこの経験が役に立つだろうと確信します。このような素晴らしい環境を作って与えて下さった先生方や、練習を手伝ってくれた先生方にはとても感謝しています。

【第70回全国小・中学校作文コンクール受賞】

読売新聞社主催の「第70回全国小・中学校作文コンクール」で、7年・鳥羽美弥さんが最優秀賞を受賞し、埼玉県知事から賞状が授与されました。さらに47都道府県之最優秀賞の中から各部門10名が選ばれる中央審査では、全国3位となる「JR賞」を受賞しました。

鳥羽 美弥(7年生)



自分が「伝えたい、書きたい」と思ったことを書いた作文で、このような賞を受賞することができ、とても嬉しいです。この作文で書きたかったことは、私が一年生の時に、入学式で手をつなしてくれた四年生との「絆」と「縁」についてです。偶然同じチームになった四年生の「なっちゃん」と、様々な出来事を通して、家族ぐるみの深い絆が作られました。

開智の魅力は、異学年齢学級で歳の離れた人とも交流ができるので、いろんな人の考えや意見を自分の中に取り込んでいけるところだと思います。私はこれからも作文コンテストやスピーチコンテストにチャレンジして、私が「なっちゃん」に憧れたように、下級生から「あんな上級生になりたい」と憧れられるような上級生になりたいです。